

令和4年3月18日

令和3年度（2021年度）「Jブルークレジット®」の認証・発行及び公募結果の公表 ～ ブルーカーボン・クレジットの認証・発行及び公募について ～

ジャパブルーエコノミー技術研究組合（JBE）¹では、令和3年度（2021年度）、各プロジェクトの関係者から独立した専門家等である委員ら（7名）により構成された審査認証委員会の意見を受け、以下のとおり、令和2年度（2020年度）に登録した1つのプロジェクトに加え、新たに3つのプロジェクトを新たに登録し、計4つのプロジェクトの実施について「Jブルークレジット®」を認証・発行いたしました【別紙】。

また、このうち3つのプロジェクト（発行総量 64.8 [t-CO₂]）については、JBEにおいて購入申込者の公募を実施し、延べ33者（重複含む。）の各企業・法人に対し、「Jブルークレジット®」を次のとおり譲渡いたしました。

譲渡総量 64.5 [t-CO₂]

譲渡（購入）税抜総額 4,696,641 円（ただし、消費税等 10%相当額別途加算）

1 t-CO₂ あたり税抜平均単価 72,816 [円/t-CO₂]（1 円未満端数切捨て）

購入企業・団体一覧（プロジェクト毎、重複あり）

「多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」
株式会社商船三井、東亜建設工業株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、丸紅株式会社
「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」
中電技術コンサルタント株式会社、東亜建設工業株式会社、一般財団法人山口県環境保全事業団、株式会社東京久栄、株式会社商船三井、株式会社モルテン、基礎地盤コンサルティング株式会社 中国支社、株式会社トクヤマ、東京海上日動火災保険株式会社、東ソー株式会社、一般社団法人鋳田籠工法協会、出光興産株式会社、日本精蠟株式会社、三洋テクノマリン株式会社
「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」
株式会社三栄、イオンモール株式会社 イオンモール神戸南、株式会社マツモトコーヒー、神戸木材運輸株式会社、川崎車両株式会社 神戸本社、株式会社マリガード兵庫、神戸カルモマリーナ株式会社、株式会社新川鉄工所、株式会社神戸マツダ、寄神建設株式会社、東亜建設工業株式会社、株式会社神戸酒心館、株式会社商船三井、マルハニチロ株式会社、株式会社近畿道路資材

（順不同）

¹ 技術研究組合法に基づき、2020年7月14日に国土交通大臣の設立認可を受け、翌15日に設立された認可法人である。国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所（東京都三鷹市 理事長 栗山善昭）、笹川平和財団（東京都港区理事長 角南篤）、他個人が組合員として参加する。



Japan Blue Economy association
ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

今回の「J ブルークレジット[®]」にかかる一連の手続きは、JBE による同クレジットを用いた資金メカニズム構築に関する研究開発、実証試験の一環として実施されました (<https://www.blueeconomy.jp/credit/>)。

JBE は、国土交通省港湾局をはじめとし、産官学民様々な主体と連携しながら、ブルーカーボン等に係る環境保全と資金メカニズムに関する研究開発と実証実験を引き続き推進してまいります。

【別添資料】

- オフセットクレジット制度の概要（図1）
- 各プロジェクトの概要（図2から図5まで）

《お問合せ先》 ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 pr@jbe.blueeconomy.jp

◆ジャパンプルーエコノミー技術研究組合のホームページ
<https://www.blueeconomy.jp>



Japan Blue Economy association
ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

【別紙】

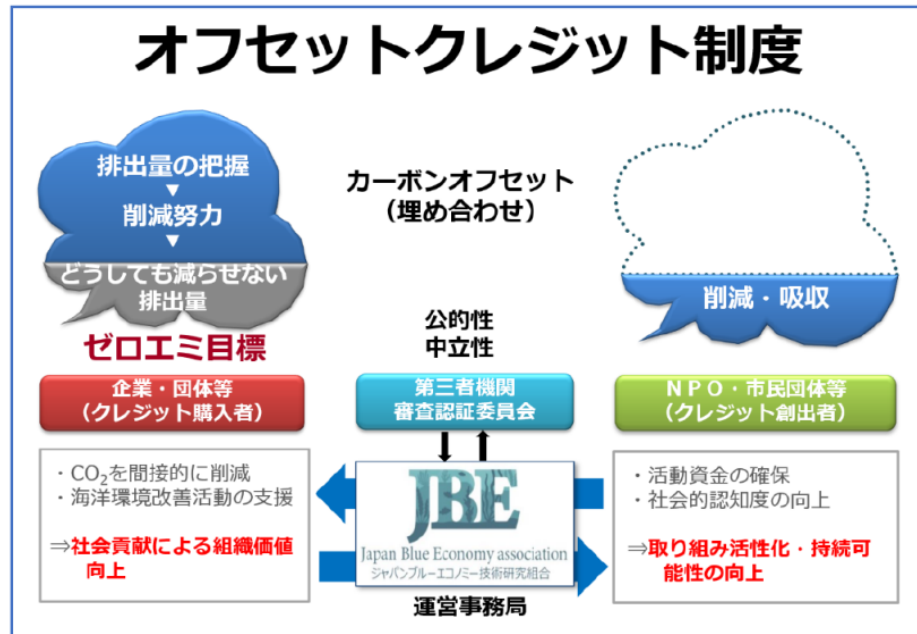
プロジェクト名称	プロジェクト申請者・実施者
「多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」	横浜市漁業協同組合 特定非営利活動法人海辺づくり研究会 金沢八景-東京湾アマモ場再生会議
「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」	山口県漁業協同組合 周南統括支店 大島干潟を育てる会 周南市
「兵庫運河の藻場・干潟と生きものの生息場づくり」	兵庫漁業協同組合 兵庫運河を美しくする会 神戸市立浜山小学校 兵庫・水辺ネットワーク
「J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置したブロックによる藻場造成プロジェクト」	電源開発株式会社 技術開発部 茅ヶ崎研究所

詳細については、次のページにおいて公表しております。

[令和3年度（2021年度）Jブルークレジット認証・発行について](#)【JBE ホームページ内】



Japan Blue Economy association
ジャパンブルーエコノミー技術研究組合
【別添資料】



オフセットクレジット制度の概要（図1）

多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動

横浜市漁業協同組合、NPO海辺つくり研究会、金沢八景―東京湾アマモ場再生会議

◆ プロジェクトの概要

国や自治体、市民団体、学校、漁業者、企業など多様な主体が連携して取り組む「東京湾UMIプロジェクト」

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kvoku/59engan/umipro/umipro.htm>

平成25年度からアマモ場の再生に取り組み、横浜ベイサイドマリナ横の浅場で10haを超えるアマモ場が再生され、多様な生きものを育む豊かな海辺となりました。また、平成22～24年度の関東地整の藻場造成実験により形成されたアカモク場を、横浜市漁協が種苗の供給を行うなど持続可能な形で、横浜の新たな産品にしています。

◆ プロジェクトの特徴・PRポイント

豊かな東京湾を取り戻すためのアマモ場再生活動や持続可能な漁業は、「生物多様性の向上」「生物資源の増大」「地域コミュニティの再生」に加えて、ブルーカーボンの拡大により「地球温暖化の抑制」にも貢献します。

<http://www.amamo.org/>（金沢八景-東京湾アマモ場再生会議Webサイト）

令和2年度に「ブルークレジット」で得た資金は、東京湾内のアマモ場再生に活用するアマモの種子や苗の生産、ベイサイドマリナでの見守り活動、金沢八景付近での再生活動などに活用しています。

◆ 海辺の藻場や干潟などが有する多様な価値

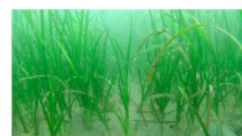
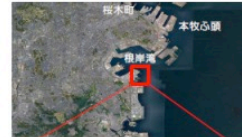
アマモ場やアカモク場などの藻場や干潟などの生態系を持つ多様な価値は、私たちの暮らしを支えてくれています。

ある試算によると、横浜ベイサイドマリナ横の藻場は以下のような価値を持っていることがわかっています。

食料供給	メバシリなどの魚介類の漁獲が年間745kg増加
水質浄化	海の生物によるCODの浄化量が年間1.2トン増加
種の保全	この海域で生息する海生生物が28種類増加



専門家による経済価値の解析では、年間約1800万円に相当すると評価されました。



「多様な主体が連携した横浜港における藻場づくり活動」の概要（図2）

プロジェクト名：大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクトin徳山下松港

プロジェクトの概要

- 大島干潟は、徳山下松港内の浚渫土砂を活用し造成された約29haの人工干潟（平成29年度完成）です。干潟の造成後より、アマモ場・コアマモ場が新たに形成されてきており、現在までに、多様な生態系が構築されてきています。
- 平成29年11月、大島地区住民と山口県漁業協同組合周南統括支店に所属する漁業者の参加・協働により貴重な地域資源である干潟を活用した地域の活性化を目指して「大島干潟を育てる会」（以下、育てる会）を設立し、現在は、育てる会を中心とした保全活動を行っています。
- 育てる会は、アサリ資源の保全や増殖活動、同干潟内のアマモ場・コアマモ場の保全のほか、国・周南市が連携して毎年実施する環境学習活動の支援を行っています。山口県漁業協同組合周南統括支店は、漁業権が設定されている干潟を含む海域での活動について、運営委員会に諮り許可するとともに、モニタリング時の備船、活動への助言・協力等を行っています。周南市は、干潟の管理者として育てる会の活動を支援し、育てる会の保全活動に参加しているほか、ドローンや船舶によるアマモ場やコアマモ場のモニタリングを実施しています。
- これら3者が連携協働して実施している大島干潟での活動は、今後の継続的な活動により多様な生態系の維持及び拡大につながっていくことが期待されています。

プロジェクトの特徴・PRポイント

- 大島干潟での保全活動を通じて、ブルーカーボン生態系の維持・拡大が行われており、生物多様性の向上や地球温暖化の抑制にも貢献しています。
- 地域資源である大島干潟は、保全活動の拡大による地域の活性化や水産振興を目指しており、ブルーカーボン・オフセット制度を活用して、ここから多くの人々がつながることによって、さらなる保全活動の活性化及び持続化、またカーボンニュートラルへの貢献を推進していきます。



「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」の概要（図3）

プロジェクト名：兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

・プロジェクトの概要

兵庫県神戸市兵庫区に位置する兵庫運河について、水質浄化や藻場の造成、周辺環境美化活動について取り組んでいます。貯木場跡地付近にて、近畿地方整備局・神戸市のそれぞれで造成された2つの干潟での活動について、今回申請を行います。

- あつまれ生き物の浜
- きらきらビーチ

■ 対象

アオサ・ジュズモ・アマモ・干潟

■ 申請者

兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会
 神戸市立浜山小学校、兵庫・水辺ネットワーク



兵庫運河の位置



兵庫運河



小学生への干潟お披露目会



アマモの繁茂

・プロジェクトの特徴・PRポイント

- 第五防波堤撤去工事からの発生材(石材、土砂)を流用して、兵庫運河に干潟(あつまれ生き物の浜)を創出しました。
- 磯場・砂場・タイドプールなど、小学生からの意見を取り入れて造成し、環境学習の場として利用されています。愛称「あつまれ生き物の浜」も小学生によって名付けられました。
- 干潟へのアマモの播種や移植などの活動を行っています。
- 漁業関係者や大学生が協力し、干潟の有する水質浄化やCO2固定能力の調査も行っています。

「兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり」の概要(図4)

プロジェクト名：J-POWER若松総合事業所の周辺護岸に設置した石炭灰重量モルタルブロック等による藻場造成プロジェクト

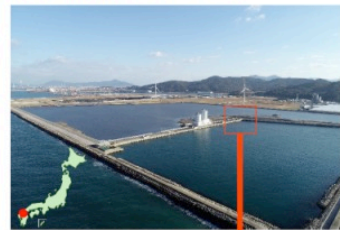
◆プロジェクトの概要

J-POWERでは、平成30年度から石炭灰と銅スラグを主原料としたコンクリート代替材料(石炭灰重量モルタル)を用いた藻場造成効果の高い素材開発に取り組んでおり、設置したブロックには藻場造成実験をとおして藻類が活発に繁茂することを確認できています。

上記の素材を用いたブロック設置区域を含め、若松総合事業所(北九州)の周辺護岸全体のブロック設置面積は6.4haにおよび、ここにはアラメ、ツルアラメ、ホンダワラが繁茂し海域環境と共生した生物場を作り出しています。

◆プロジェクトの特徴・PRポイント

従来の土木構造物は構造機能の実現に重きを置き構築されてきました。開発中のコンクリート代替材は密度を重くするというグレーンインフラ機能の増加だけでなく、藻場造成効果に優れた構築物(グリーンインフラ)とすることもできる、いわゆるグリーン・グレイハイブリッドインフラを実現することを目指した取り組みとなっています。



「J-Power 若松総合事業所周辺護岸に設置したブロックによる藻場造成プロジェクト」の概要(図5)